

MJIIT 短期留学プログラム報告書

理工学部電気電子生命学科三年

(プログラム参加時)

宮崎 将也

今回約二ヶ月の間、工学系国内トップのマレーシア工科大学の傘下にあるマレーシア日本国際工科院(MJIIT)に留学していろいろなことを感じ、そして学ぶことができました。その中でも、自分の中で特に印象に残った三つのことについて紹介したいと思います。

一つ目は、マレーシアは多文化社会が当たり前のように浸透しているということです。多文化社会についての見識を深めるということは、今回マレーシアに留学する目的の一つでしたが、これは本当によく達成できたと思います。今回のような経験は日本にいただけでは決して体験できないだろうし、旅行程度の短期間ではそのほんの一部しか知ることができないでしょう。ご存じの通り、マレーシアには主にマレー系、中華系、インド系の人達があります。彼らは普段は自分達の文化を大切に、それぞれマレー語、中国語、ヒンドゥー語を話しています。また宗教も、イスラム教、仏教、ヒンドゥー教といった別々の宗教を信仰しています。幸い中国語が少し話せるので、中華系の学生達とはすぐに仲良くなることができ、彼らに他の民族の人達についてどう思うか真相を聞くことができました。彼らは、「それぞれの宗教で御祈りの時間があったり、食についてのタブーもあり、なかなか一緒に食事に行ったり遊んだりすることはないけれど、僕らは彼らのことを尊重している。」とっていました。自分になるほどと思いました。多文化社会だからと言って、それぞれの文化を変容させて他の文化を受け入れるというよりは、それぞれの文化の違いを尊重しあい、相容れない部分はお互いに無干渉でそれはそれでよしとする。それがマレーシアで多文化社会が比較的上手くいっている理由だと思いました。もちろん、上手くいっていない面もありました。例えば、田舎のお店で中華系の人が英語で質問をしていたのですが、中国語訛りの英語で聞き取りづらく、マレー系の店員がイライラし始めて対応を放棄するという現場を目撃しました。また、よく通っていた屋台のマレー系のおばちゃんと仲良くなり、中華系の人達についてどう思うかと聞いたところ、「彼らは話している様子が喧嘩しているように見える。最低限、電車では静かにしてほしい。」とっていました。やはり多文化社会がどんなに進んでいても、言語の問題はまだ存在するのだなと感じました。また、英語が上手く話せる人達は多文化社会の中で比較的良好な仕事に就けていましたが、話せない人たちは少し下位の層に位置付けられてしまうのがリアルに感じることもできたし、同時に日本もうかうかしてられないということを強く感じました。

二つ目は、マレーシアの人達の日本に対する印象についてです。私が今回留学した大学は日本式の工学教育を行っている大学であったので、彼らは日本にある程度興味を持っていました。しかし、他の若い人達はそこまで日本に対して強い関心を持っているという印象はあまり受けませんでした。製品に関してははかろうじで車は日本製のものを見かけましたが、電化製品などは、昔は日本のメーカーが圧倒的な人気があったらしいですが、韓国の某メーカーや他の国の製品の方が安く人気があるという印象を受けました。日本のアニメはどの人と話してもすごく関心を持っているという印象でしたが、ファッション、アーティストなどで今の若者に人気があったのは圧倒的に韓国でした。日本の製品は質が高く、使い勝手がいいし、世界に誇れる製品がたくさんあると思います。日本の企業はもっと世界に対する発信力と世界をマーケットにしたもの作りをする必要があると感じました。日本の一世代前の携帯はものすごく革新的なものでしたが、世界を視野に入れていなかったために今ではガラパゴス携帯と言われてしまっているし、スマートフォンに関しても SIM ロックのものが多く海外では使い勝手が悪

いという評判があります。それでも私はスタイリッシュで高品質な日本製品は絶対に価値があると思し、だからこそ、将来は世界を視野に入れて日本の良さを兼ね備えた日本製品を作りたいと思いました。

三つ目は、お互い母国語でない言語で共同作業をすることの難しさです。専門分野を英語で学ぶということは留学の目的の一つでした。普段はアカデミック英語の授業に主に参加し、他の時間は所属させて頂いた研究室で過ごしていました。以前台湾に短期留学したときは、ほとんど会話は中国語で、たまに分からないときに英語で補うという感じでした。しかし、今回所属した研究室の方々は皆マレー系で、英語のレベルはもちろん個人によりますが、私を含め全体としてそこまで高くはありませんでした。そんな状況の中で専門の脳波に関する実験をすることになったのですが、本当に大変でした。まずは時間に対する意識の違いに驚きました。遅刻は当たり前、ドタキャンも珍しくはありませんでした。そして限られたミーティング時間では、専門の知識に関する英語を話すのはなかなか難しく、すれ違いが起きたり、時には全く理解ができないこともありましたが、幸いにも、教授の方が少し日本語を話せたため何とか実験を行うことができました。この経験を通して、お互いの母国語を少しでも話せることがどれだけ重要であるかということを確認することができました。それから私もマレー語を少し学び、会話で簡単なマレー語を話すようになってからは、みんなすごくフレンドリーになり、意志疎通がしやすくなりました。私のメインの研究は国立台湾大学医学部と共同で行っているのですが、今年の夏に現地で共同研究を行う前に、英語力を高めるのはもちろんのこと、専門知識に関する勉強を中国語でしっかり勉強する必要があると感じました。

以上三つのこと以外にもたくさんのごことを学ぶことができましたが、いずれにしても日本では経験できないことばかりであり、マレーシアという真の多文化社会でしか身に付けられない感覚を身に付けることができたことは、私にとって本当に貴重なことです。また、外から日本を客観的に見たことで、グローバル化が進む世界で日本の企業はどのようなアクションを起こすことが有効であるのかということを実験に考えさせられる留学となりました。

最後にこのような貴重な体験を、資金面で手厚くサポートして下さったローム・ワコー（株）吉岡洋介会長に御礼申し上げます。また明治大学の学生である私達三人を終始ご指導して下さった外務省参与・明治大学特任教授の堀江正彦先生、留学を後押しして下さった指導教員の小野弓絵先生、本当に感謝しております。今後、後輩達がこの素晴らしい MJIT 留学を通して様々な貴重な体験をし、グローバルな視点を持った技術者として成長してくれることを期待しています。



(a) 中華系の学生たちとの集合写真



(b) 配属された研究室での脳波実験



(c) マレーシアの伝統的な結婚式に参加させていただきました。